

宇治川の先陣（松口月城）

宇治の奔流流れ声有り

高綱景季先陣を争う

朱毛池月青磨墨

轡を並べ箭を払って河を渡って行く

英姿颯爽波に映じて麗かに

千載誉れは高し駿馬の名

宇治奔流流有声 高綱景季先陣争
朱毛池月青磨墨 並轡拂箭渡河行
英姿颯爽映波麗 千載誉高駿馬名

解説 梶原景季と佐々木高綱の宇治川の合戦の先陣争いを詠った詩。

語釈 ※宇治川先陣||梶原景季と佐々木高綱の源義仲打倒の宇治川合戦の先陣争い。源義経の初陣にて語り継がれるエピソード。※奔流||激しい勢いで流れること。※朱毛池月||佐々木高綱の愛馬。※青磨墨||梶原景季の愛馬。
※轡||手綱をつけるため、馬の口にかませる金具。
※箭||弓の弦につがえ、距離を隔てた目的物を射るもの。
※英姿||堂々として立派な姿。雄姿。※颯爽||人の姿、態度、行動などが、さわやかで勇ましいさま。※千載||長い年月。※駿馬||すぐれた馬。

通釈 宇治川は激しい勢いで流れているが、義仲打倒の先陣を梶原景季と佐々木高綱が争う。互いの名馬に跨がり宇治川を渡って行く。その両者の姿は颯爽なり。この両者と二人の名馬は千載に語り継がれるであろう。